

府開港計第12号
土港第1010号
平成18年 3月28日

沖縄県知事
稲嶺 恵一 殿

内閣府沖縄総合事務局長

竹林 義久



沖縄県知事

稲嶺 恵



「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成12年3月）」に記載されている動植物種以外の種の存在等について（報告）

標記の件について、別添のとおり報告いたします。

「中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業に係る環境影響評価書(平成12年3月)」に記載されている動植物種以外の種の存在等について

調査中に確認されたミル属について

1. 報告の概要
2. 報告内容
3. 事業者見解

「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成12年3月）」に記載されている動植物種以外の種の存在等について

調査中に確認されたミル属について

1. 報告の概要

①概要

「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成12年3月）」に記載されている動植物種以外の種で、事業者に情報が寄せられた種のうち、ミル属の1種と見られる緑藻については、その存在が確認されたため報告する。

②ミル属の情報

ミルは、緑藻(*Chlorophyta*)、アオサ藻綱(*Ulvophyceae*)、ミル目(*Codiales*)、ミル科(*Codiaceae*)、ミル属(*Codium*)に体系される1目1科2属の緑藻で、世界には113種9亜種18変種17品種を数え、日本国内には2005年現在、19種が記載されている。ミルの仲間は、多核嚢状体でできており細胞という単位は存在せず、葉緑体と核を含む多くの小嚢の集まりである。この小嚢から糸状の部分を出しそれぞれが絡み合い、円柱状、平面状、球状、盤状のさまざまな形の藻体となる。近年、分子系統解析などの分類技術の発展のおかげで、静岡、高知、鹿児島などからミル属の新種が見つかった。

③確認時の状況

ウミヒルモ類を中心とした海藻草類の生息状況を確認するため、飛沫帯からリーフ外縁（水深20 m）迄の、比較的広範囲なライトランセクト（距離3,700 m）による海藻草類の調査を行っていたところ、ミル属の1種と見られる非常に小さな緑藻が発見され、サンプリングし形態の観察を行った。

④調査期間

平成16年4月～17年1月の毎月

⑤観察内容

潜水観察により、生育状況、生育環境、生育場所について調査を行った。また、持ち帰った藻体を肉眼および顕微鏡により観察した。

2. 観察結果

①外部形態

この緑藻の体長は0.5 cm～2.0 cm、幅約0.5 mmの円筒状である（写真-1）。表面は非常にやわらかく、触ってみるとすぐ千切れるくらい非常にもろい。



写真-1 緑藻の外部形態（1目盛り=1 mm）

②顕微鏡観察

中心部に鎖状につながった細胞が6～7本絡み合いながら中心軸のような役割で存在し、色素体も多く含んでいるようである。また、その軸組織を包むように球形で透明な細胞が周りを包んでいる。中心軸の細胞から糸状の部分が管のように出て、この表層の細胞に繋がっている（写真-2）。

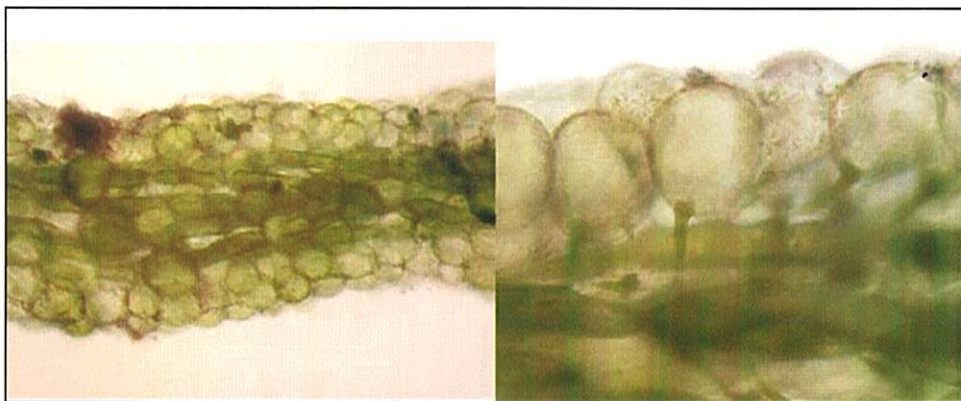


写真-2 緑藻の顕微鏡写真

③生育状況

藻体は海底から各個体が1本ずつ直立して伸びて成育している（写真-3）。藻体は大小さまざまなパッチ状に群落を作り、その群落は非常に局所的で存在し、広範囲には生育していなかった。また、生育水深は10～11 mの間であった。



写真-3 緑藻の生育状況

④生育環境

この緑藻は砂泥域のみに確認され、それらの生育海域は透明度が悪い濁った場所であった。

⑤生育場所

この緑藻が確認できた地点は、図-1の赤く示したあたりである。

⑥生育期間

生育が確認された時期は1月から8月迄であった。

貴重種の生育に関する情報です。取扱に注意してください。

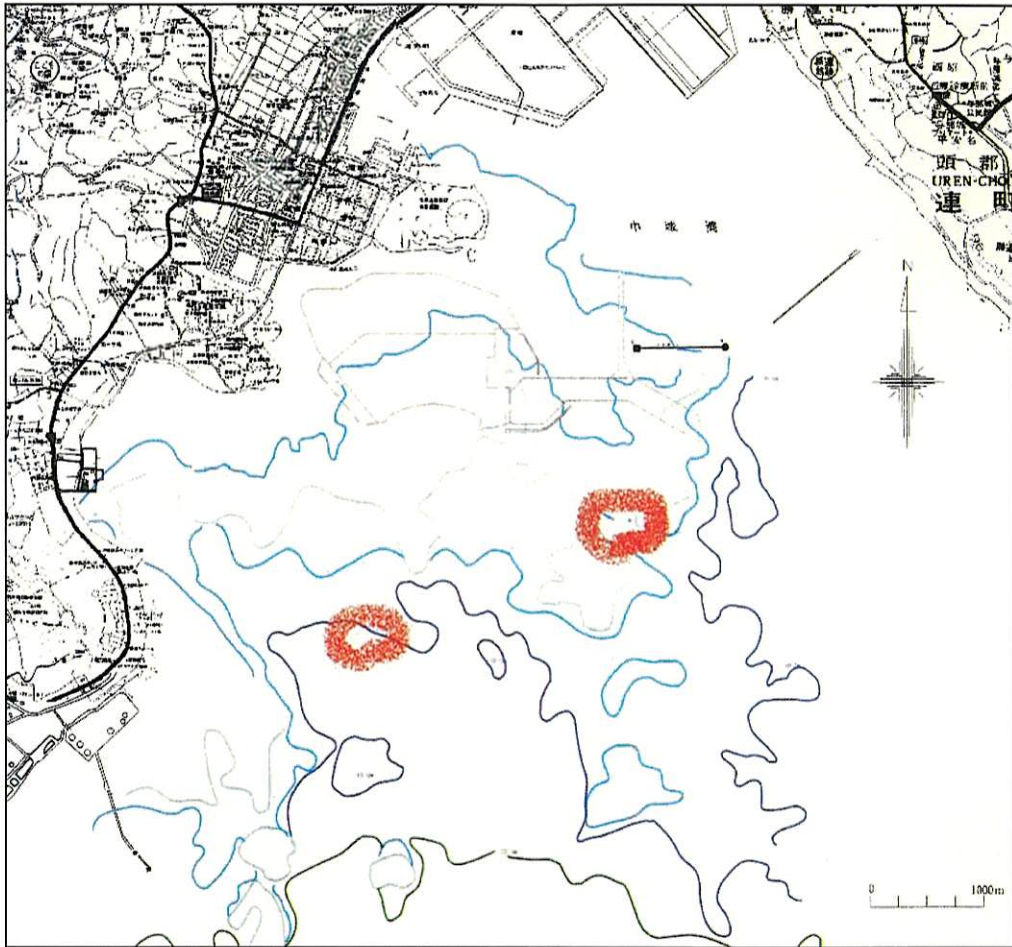


図-1 緑藻の生育が確認された場所

3. 事業者見解

「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成12年3月）」に記載されている動植物種以外の種で、ミル属の1種と思われる緑藻が、事業者が委託して実施している調査（中城湾港に生育する海藻草類に関する調査）中に確認された。

生育場所は、埋立区域沖合の砂泥域であり、工事区域からは相当程度離れているため、工事による影響の程度は小さいものと考えられるが、海上工事の実施に際しては、生育環境に影響を及ぼさないよう汚濁防止対策を徹底するとともに、従来行ってきた環境監視調査により監視を行い、埋立区域外の生育環境の保全に努める。

なお、ミル属の1種と思われる緑藻の希少性に関しては、レッドデータブック等において未記載種であり、今後の学術的な研究の進展に委ねることとする。